**公益社団法人霧島青年会議所　第六次年度理事会　議事録**

開 催 日：平成２９年１２月６日（水）

開会時間：２０時００分

閉会時間：２３時３０分

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　蛭川　真理樹　君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　池田　昌隆　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　　　　　　板元　幸仁　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　立和田　健　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　東井上　陽平　君
6. 2017年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上

７．2017年度理事長挨拶

理事長　浜田　一平　君

皆様こんばんは。本日も寒くなっており専務が体調不良で欠席です。皆様体調管理をしっかりされてください。本日は事業計画など議案が上程されております。前年度段階でしっかりと議案に目を通し、向き合い、自分ごとと捉えて本日の理事会を盛り上げて頂きたいと思います。そうすることによって２０１８年度の組織力も上がり笑顔が溢れる一年になると思っております。忌憚なき会になることを祈念いたしまして私の挨拶とさせて頂きます。本日も宜しくお願い致します。

８.2017年度次年度理事長挨拶

次年度理事長　前田　数馬　君

皆様お疲れ様です。次年度正副、次年度理事会とお忙しい中、本日もお集まり頂き誠にありがとうございます。本日は迫田専務が体調不良でお休みということで、進行に滞りがないよう蛭川事務局長が進めて参ります。先日、熊本八代で次年度地区長の話を聞き同行したメンバーと刺激を受けて帰ってきました。次年度が日に日に近づいていると感じ、気が引き締まる思いです。本日は次年度の議案が上がっております。皆様で良い事業にしていければと思います。是非たくさんの意見を出して頂きながら実りの有る次年度理事会になりますように皆様で力を合わせて行っていきたいと思いますので宜しくお願い致します。

９.議長の選出

　協議事項：事務局長　蛭川　真理樹

１０.作成人並びに署名人の指名

　　　議事録作成人：小玉佳代子　事務局次長

　　　議事録署名人：藏元副理事長、池田委員長

１１.出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | 〇 | 藏元国明 | ○ | 橋　正貴 | ○ | 新里大輔 | ○ | 永吉大希 | ○ |
| 池田昌隆 | 〇 | 東井上陽平 | ○ | 立和田　健 | 〇 | 板元幸仁 | ○ | 迫田博文 | × |
| 蛭川真理樹 | 〇 | 小玉佳代子 | 〇 |

　　理事１１名中１０名出席により定足数を充たしていることを確認した。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 浜田一平 | ○ | 竹下圭一郎 | ○ | 田上俊介 | ○ |

　　役員３名中３名出席により定足数を充たしていることを確認した。

１２.議題並びに資料の確認

　　　協議事項４件　連絡・報告事項３件

１３.前回議事録の承認

　　　橋正貴副理事長　　　誤字・脱字を指摘、修正を確認したことの報告

　　　東井上委員長　　　　誤字・脱字を指摘、修正を確認したことの報告

１４.委員会報告

　　　各委員会　特になし

１５.議題

協議事項１：２０１８年度　１月通常総会について

蛭川：　上程者である藏元副理事長宜しくお願い致します。

藏元：　詳細につきましては池田委員長からご説明させて頂きます。

池田：　前回の指摘事項・修正事項の読み上げ

板元：　出欠返信用ハガキの返信期限が１月１６日になっておりますが、回収できなかった場合の対応策があれば教えてください。

池田：　１０番項　引継ぎ１の通りです。

永吉：　１１番項　工夫９に補足資料とありますが参考資料として添付がありますでしょうか。

池田：　本日は添付しておりません。イメージとして事務局にご協力頂きながら各決算書の内訳が分かるような資料を想定しております。

永吉：　分かりやすい資料を作成し添付して頂きたいと思います。

竹下：　総会の目的を達成するために必要なことを教えてください。

池田：　重要案件を決議することを目的としておりますので、出される議案に対して過半数以上の賛成を得る、会員の３分の２以上に出席を確保すること、更に提出される議案がそれだけの出席及び賛成を得られる内容でなければならないと思っております。

竹下：　その通りです。それで良ければこの議案で良いです。ですが、いつからか総会に対して定款に書いてあるから行うという方向性になってきており違和感があります。それが理由で意識が落ちていると感じます。やはり総会は会員に出席してもらわないと意味がないと思います。それを踏まえて今回委員会が考えた今までと違う出席率向上のための手法があれば教えてください。

池田：　より出席率を上げるために今回取らせて頂いたアンケートの中で議案を分かりやすくしてほしいという意見に対しては、予算書の補足資料を事前に閲覧できるようにさせて頂き、総会中に質問ができる雰囲気作りをしたら良いという意見に対してはシナリオに質問を促すような文言を追記しお応えできるようにしようと思っております。

竹下：　出席しないと分からないのでは意味がないと思いますが、その対応を事前に伝える方法を教えてください。

池田：　そちらに関しましては漠然とですが事前に伝えるしかないと思っております。１１番項目　工夫７、工夫８も含め８月総会以降につながると思いました。

竹下：　色々取り組んでいくことは良いと思います。今後の総会の位置付けとして、今の目的で総会の出席率が上がるのか疑問です。この目的が総会の目的に沿っているのか、その先に目的がないと人は集められないと思います。今の目的では３分の２以上集める必要がないので難しいと思いますし、議案も必要ないと思います。個人の所見でも構いませんので、この総会に対して議案を上程する意味がどのようにあるのか考えていれば教えてください。

池田：　個人の見解になりますが、参加したい、総会で質問してみたいと思うような内容　の議案であれば出席率が上がり、出席率の高い総会で可決された内容に関してはより推進力をもって事業を進めていけると思っております。

竹下：　今の答弁を聞くと決議することが目的ではない気がします。今、答弁された意識を上げていけるような目的を議案書に反映させて頂きたいと思います。工夫がありますが今の目的とリンクしておりません。アドバイスとして委員長会をして頂きたいと思います。出席率向上については委員長全員で知恵を絞ることをスタンダードにしていけば必ず出席率は上がると思います。

田上：　１点目、事業内容の目的達成のための手法は再考してください。２点目、議題の中で２０１７年度事業報告とあり、引継ぎ事項に報告事項に上げてくださいとありますが経緯を教えてください。

池田：　否決されたところで報告は覆らないので議案ではないということからこのような形にさせて頂きました。

田上：　今までも採決はしていないと記憶しております。

藏元：　竹下監事から議案として上がっているのに採決しないのは何故かとのご指摘を頂きまして本年度は採決しましたが、池田委員長が申し上げた通りの経緯があり報告事項として上げさせて頂いております。

田上：　理解いたしました。それであれば報告事項を書く必要があるのかと思いました。

藏元：　そちらについては精査し反映していきたいと思います。１点目については確認不足です。申し訳ありませんでした。

浜田：　１１番項　工夫３について具体的に踏み込んだ資料を作成し実行して出席率向上につなげたらどうかと思います。

池田：　以前からある手段で有効という意見も多かったので継続しておりますが、特定の方に負担のかかる手法というところもありますので、資料作成については持ち帰って検討したいと思います。

竹下：　提案ですが、どうしたら仲良くなれるかを今後の課題として考えて頂きたいと思います。

池田：　監事の意見が根本だと思います。委員長会で話し合って良い方策を打ち出したいと思います。

前田：　出席率を向上させたいという理事の皆様の想いの意見だと思います。正副での見解と違いがありますが、やはり竹下監事のご指摘があった通りその先に何があるかということを考え目的に追記して頂きたいと思います。それだけのためだけに偏らないように再考して頂ければと思います。次回審議です。より良い総会になるよう委員会で話し合って頂きたいと思います。この１月総会の出席率に１年間の船出がかかっております。協力もしていきたいと思います。期待しております、宜しくお願い致します。

藏元・池田：ありがとうございました。

藏元：　アンケートの協力の依頼

協議事項２：２０１８年度　大隅３ＬＯＭ合同ブロック会長公式訪問例会について

蛭川：　上程者である永吉副理事長宜しくお願い致します。

永吉：　詳細につきましては板元委員長からご説明させて頂きます。

板元：　前回の指摘事項・修正事項の読み上げ

新里：　他のＬＯＭの目的も参考にという前回の指摘に対して、どのように対応されているのか、また参考資料等があるのか教えてください。

板元：　他のＬＯＭの議案を頂き、それを参考に内容・文言を盛り込み作成させて頂きました。

新里：　参考にした部分を簡単に説明して頂きたいと思います。

板元：　背景・目的は他のＬＯＭの同じ文言を入れております。

新里：　参考資料に添付して頂きたいと思います。

板元：　資料を作成し添付したいと思います。

橋　：　３番項　参加促進方法【内部】３番目はどのようなイメージと詳細を教えてください。

板元：　早い段階で各委員会に参加し、特に新入会員へは個別に説明させて頂こうと思っております。

橋　：　参加促進につながれば良いと思います。

竹下：　前回からの変更は確認できますが、今回の例会で霧島ＪＣの会員に対してどのような効果を生み出したいのか教えてください。

板元：　まずは霧島ＪＣの２０１８年度の方向性を理解して頂き、合わせて鹿児島ブロック協議会１年間の指針を理解、共有して頂きたいと考えております。

竹下：　それだけでは勿体無いと思います。行うことが分かっているので目的が最初に出ています。目的としなくても分かっていることだと思います。先程、池田委員長の協議の際にありましたが、行うことのゴールしか見据えていません。行った後のことを目的に掲げることが大事だと思います。そのような所から議案の精度を上げていかなければならないと思います。５～６年前からレベルが上がっておりません。現在の目的を達成することによってどのような効果を期待するのか、目的を考えて頂きたいと思います。３ＬＯＭ例会は意味があり続いているわけですから、背景も同様です。歴史を調べ、今後どのような起爆剤になるかというところまで想定した背景目的を考えたら今までにない３ＬＯＭ例会を開催できるのではないかと思います。是非今までにない構築をお願いしたいと思います。

板元：　背景目的に関しまして再考したいと思います。

田上：　予算について教えてください。

藏元：　まだ決定していない状況ですので早急にルール作りをしたいと思います。まずは議案上程の３日前に委員長・副理事長と予算関係の確認を行い、問題点があれば指摘対応して理事会に上程するという形で進めるという風に考えておりますが完全なものが周知できていない状況ですので早急に進めていきたいと思います。

田上：　せっかくの予算の意味がなくなるので早急に決めて頂きたいと思います。

藏元：　執行部も含めて対応致します。

浜田：　９番項｢最大の配慮～｣とありますが具体的に教えて頂きたいと思います。

板元：　前回の議案ではセレモニーが全て霧島ＪＣメンバーにしており、せっかく３ＬＯＭが集まりますので演者を当て込み例会自体に参加して頂くことを最大の配慮　という形で書かせて頂きました。お出迎えやお見送りも行おうと考えております。親睦と団結を深めることについては特に工夫は記載しておりませんが懇親会で深めていけるようにしていきたいと考えております。

浜田：　ありがとうございます。

前田：　３年に１回は霧島で開催される例会です。霧島ＪＣの出席率が高くなければ失礼に当たると思いますので工夫の参加促進に例会・懇親会において会員全員に役割を振ることを記載して頂きたいと思います。そして例会はめりはりのある運営、懇親会は元気良く楽しく盛り上げて頂く様な設えをして頂きたいので懇親会の工夫もお願いしたいと思います。委員会メンバーで力を合わせて、期待しておりますので宜しくお願い致します。

永吉・板元：ありがとうございます。

藏元：休憩動議

永吉：　セカンド

前田：　休憩動議

全会一致で可決

21：25まで休憩

協議事項３：霧島青年会議所例会について

蛭川：　上程者である永吉副理事長宜しくお願い致します。

永吉：　詳細につきましては板元委員長からご説明させて頂きます。

板元：　事業概要の説明

新里：　正副で３番項の参加促進方法にパソコンのメールで案内を流すことを検討頂いてはという意見があったのですが記載がありません、見解を教えてください。

永吉：　伝え漏れです。申し訳ありません。記載します。

新里：　１１番項、例会についての工夫４のＱＲコードはどちらに掲載するのか教えてください。

板元：　式次第に掲載させて頂きます。

新里：　次回までに準備をお願い致します。

板元：　作成し、添付させて頂きます。

東井上：実施日時について、遠方から来られる方もいると思うのですが全て１８：３０受付１９：００開始なのでしょうか。

板元：　例会に対しては統一させて頂きたいと思っております。

東井上：１０番項、出席についての引継ぎ３は遠方に限らずだと思います。

板元：　遠方に対しては特に早めに周知をするようにしたいと思います。

藏元：　３番項、参加促進方法の４つ目は誰に対して行うのか教えてください。

板元：　オブザーバーも含め地域の市民の方々に他団体と協力をして呼びかけを行っていきたいと思っております。

藏元：　その内容が分かるように記載して頂けきたいと思います。

板元：　修正させて頂きます。

立和田：次年度から例会のスタイルが変わると思うのですが、把握に温度差が出ないように、いつどのタイミングでどのように伝えるのか教えてください。

板元：　各月に案内分を送付します。オブザーバー、内容に関しては各委員長にお願いするなど横のつながりをもって進めていきたいと思っております。

立和田：新規会員１００名と掲げられていましたが、　例会に当たって毎月何名程の入会を目指すのか、それに向けて何名程のオブザーバーを参加につなげるのか具体的な数字があれば教えてください。

板元：　拡大については霧島ＪＣの会員１００名が目標です。具体的な数字は考えておりません。最終的な目標に向かって少しずつつなげていければいと思っており、例会で拡大をするというよりは年間を通して行っていきたいと思っております。

永吉：　補足ですが、例会とアカデミーを１セットで考えて頂けると分かりやすいと思います。月の数字を出してしまうとノルマになり会員の皆様の重荷になってしまうのは望ましくないと思います。仲間意識をもって頂ける様な設えを考えておりますので年間を通して１００人という形にさせてください。

立和田：１００という数字に対しては具体的に考えられたほうが目標につなげられると思います。真剣に考えた時に簡単な数字ではないと思います。具体的に数字が分かれば動きやすいと思いましたので質問させて頂きました。

板元：　参考にして反映したいと思います。

東井上：仮に２０：００から参加した場合、アカデミーは出席で例会は欠席扱いとなるのでしょうか。

板元：　そのようになります。

東井上：仮にアカデミーだけ全出席して例会には出席できなかった場合の評価の正当性はあるのでしょうか。

前田：　例会とアカデミーは別という考えです。例会は会員全員で方向性を確認するという目的、アカデミーは研修事業という位置づけです。

池田：　３分間スピーチについて、どのような内容なのか誰がするのか具体的に教えてください。

板元：　正副での意見で次年度理事長の希望です。お題は都度、次年度理事長から発表があり、発表する方はクジで決めるという形で検討中です。

田上：　１００人というのが、事業の１００人なのか拡大の１００人なのか委員長と副理事長で相違がありますので統一してください。例会と事業は別ということですが、　メンバーの志気を上げるのも大切だと思いますので例会の中身というか例えばスピーチについては当日きちんと対応できる人は限られると思います。工夫が必要　だと思います。来年度、褒章がないと思いますが検証も大切な事ですのでそちらについても考えて頂ければと思います。

板元：　その点を含めて再考します。

藏元：　予算について、会場費が計上されていますが、空調使用など考慮して計上して頂きたいと思います。一括で審議を取られると思いますが差異が発生した場合の対応をされるのでしょうか。

板元：　精査します。差異については検討中です。

藏元：　補正予算を最後で組むより修正で出すなどの対応を心がけて頂きたいと思います。公共の施設で人数によっては入らない場合に民間の施設となったときには金額にかなり差があがります。修正の対応が形を取って頂きたいと思います。

板元：　対応させて頂きます。

浜田：　３分間スピーチについて、議案に上げる中で委員長が考えるメリットや効果を教えてください。

板元：　今回の例会については会員が前にできる機会はセレモニーしかありませんので、色々な機会を与えるためにも人前で話す機会を提供できたらと思い取り入れさせて頂きました。

浜田：　議案書に効果も反映して頂ければと思います。３番項、参加促進方法の４つ目について、今回の例会の内容で協力は得られるのでしょうか。

板元：　その後の研修アカデミーを含ませながらご協力を頂けたらと考えております。

浜田：　例会というより研修アカデミーの内容ということで良いでしょうか。

板元：　例会の告知はしていきますが、研修アカデミーも合わせて参加促進につなげたいと思います。

浜田：　例会の内容を見たときにオブザーバーが参加したいと思う内容か疑問です。会員に関しても同様です。例会への出席が少なくなると組織力の低下にもつながると思います。そちらについての案があれば口頭で教えてください。

板元：　現在案というものはないので、工夫を考えたいと思います。

浜田：　研修をメインにして例会をおざなりにするのは危険だと思います。例会は例会としてしっかり捉え議案を作成して頂きたいと思います。

板元：　修正させて頂きます。

前田：　色々な意見が出ましたが、板元委員長の委員会で一括することについては正副メンバーの統一見解です。板元委員長に質問が殺到しておりますが、参加促進方法などについては全委員会で考えて頂き、また連携が取れるよう副理事長に尽力して頂き他人事にならないよう委員会が工夫と効果を２つ程は上げて頂きたいと思います。担当する月が決まっておりますので季節的な考慮も含め、また最大重要案件でありますので拡大においても全会員で取り組んで頂きたいと思います。板元委員長から推進方法を提供し、各委員長に考えて頂いてそれを踏まえて議案にして頂きたいと思います。３分間スピーチの方法に関しましては詳細を決めていこうと思います。盛り上がる秘策を考えながら各委員長と連携して考えて頂きたいと思います。期待しておりますので精度を上げて頂きたいと思います。

協議事項４：アカデミー研修事業について

蛭川：　上程者である永吉副理事長宜しくお願い致します。

永吉：　詳細につきましては板元委員長からご説明させて頂きます。

板元：　事業概要の説明

東井上：チラシに定員が１００名とありますが３月に募集し４月以降から参加したいという場合はどのようになるのでしょうか。

板元：　出来る限り参加できるよう工夫していきたいと思っております。

新里：　年間計画で申し込み期間や途中参加の費用などどのようなフローで行うか精査した方が良いと思います。参加促進方法を対内と対外分けて記載して頂きたいと思います。１００人募集するのはハードルが高いと思いますので綿密に計画する必要がありますので対外対象者のリストを参考資料に添付することをご検討頂きたいと思います。最後に、事前にアンケートを取られたとおもうのですがその結果の添付がありませんので進捗状況を教えてください

板元：　修正対応致します。

新里：　アンケート結果も添付して頂きたいと思います。テーマ設定が重要でニーズに反映されているかの検証しなければ判断できませんので判断できる資料を添付して頂きたいと思います。

板元：　添付させて頂きます。

田上：　対内目的について、発表した方だけの目的に感じるのですが。

板元：　具体的には記入しておりませんが、サポートメンバーにも計画段階から参加して頂きたいと思っており指導力向上などにつなげていけたら良いと思っているところではあります。

田上：　指導力の向上が一番の目的ということで良いでしょうか。

板元：　そうです。

田上：　言葉の使い方は大事だと思います。指導力とプレゼン能力とは違い、講師としては指導力よりプレゼン力が大切だと思います。目的が優先だとすると指導力というのは再考してください。中身の資料も揃っていないので分かりにくいのですが、目的は再度落とし込みをされると良いと思います。先程も指摘がありましたが、１００人に対して明確にしておかないと目的自体がおかしくなりますので　計画書に落とし込まれた方が良いと思います。

板元：　再考したいと思います。

東井上：こちらの報告は１回でしょうか。毎月の検証はどのように対応されるのか教えてください。

永吉：　こちらの議案に対しての報告書は１回、検証は毎月行い翌月のカデミーに反映させて頂きたいと思います。

田上：　開催時間が適当なのか疑問です。時間設定の考え方を教えてください。

板元：　例会の後ということで設定させて頂いております。

田上：　こちらの都合であり参加される方の都合は考えられていないと思います。来やすい環境づくりは大切だと思いますので再考して頂きたいと思います。

板元：　再考します。

浜田：　この内容で対外目的を達成できるポイントを教えてください。

板元：　スキルを身に付ける、様々な学びを構築していけるなど様々ありますが、アカデミーの内容で達成できるのではないかと思っております。

浜田：　流れが分かりにくいので意図を記載した参考資料があると分かりやすいと思います。第２回以降の理事長挨拶が抜けております。アンケートが１つしかありません。それぞれに沿ったアンケートを作成なければ次に反映できないので対応してください。中身が見えないと審議で手を挙げられません。委員長の想いが反映できているのか、そこまで見えるような計画書を作成して頂きたいと思います。

永吉：　大体の時間を反映ということだったのですが、更に深いものということでしょうか。

藏元：　正副でこの程度の内容では分からないという見解だったと思います。内容までという話しだったと思います。

竹下：　１回で出す理由を教えてください。

前田：　意図としては年間で計画することによって学びたいことを選べるというイメージです。

竹下：　そのような理由であれば内容を詰めて頂かないと話しになりません。イメージだけでは事業は構築できません。この内容で進めると例会毎に変わってくると思います。年間で計画する場合の議案書の勉強から行い一括で審議を取るなりの議案書を作成して頂きたいと思います。予算の根拠もありません。アドバイスとして、事業を行うための事業計画ではなく事業の方向性のビジョンを描く計画書であってほしいと思います。この事業を行う理由をもう一度落とし込んで考えてほしいと思います。

藏元：　見積書の添付をお願いします。

前田：　意見を踏まえてより良い議案を作成して頂きたいと思います。期待しておりますので宜しくお願い致します。

永吉・板元：ありがとうございました。

１７.報告・連絡事項

１８.監事講評

監事　竹下　圭一郎　君

　皆様お疲れ様です。まずは本日理事会を見させて頂いて感じたことは前回同様、正副での見解が理解されていないと感じました。理事会の存在の意味を今一度考えて頂きたいと思います。好き勝手に行うのであれば集まる必要ないと思います。しかし会議所、会員の会費を使うことに対しての理事としての責任があると思いますし、周りからの評価、影響力が少なからずあると思います。予算を使う上での背景目的にこだわりがなければ意味がないと思っています。例年行っているからという考えであれば単年度制をやめた方がいいと思います。前年度よりも進化していかなければならないと思っておりますので過去を調べて学んで頂きたいと思います。蛭川事務局長によるスムーズな進行ができました。お疲れ様でした。

監事　田上　俊介　君

　　　皆様お疲れ様でした。次は審議の案件もありますので２０１８年度をしっかりスタートするためにやるべき事をしっかりしていかなくてはならないと思います。運営についても不測の事態はありえますので当事者意識をもつ必要があると思います。今年も残り僅かですので残された時間を有効に使えるようにと思います。一つの議案に時間がかかっていて理事会で話す内容ではないことも実際にありましたので、理事会の中身を濃くするためにもしっかりと議案を作成、事前に報告しておくことがあれば済ませておく、一人ひとりがそのような考えをもって次回以降に活かせて頂ければと思います。お疲れ様でした。

１９.次回開催日時・場所の決定

１２月１４日（木）20：00　　第七回次年度正副理事会

１２月１９日（火）20：00　　第七回次年度理事会

　　　場所　ＪＣ会館

２０.閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　小玉　佳代子　君

議長・理事長（代表理事）　　　　前田　数馬　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　池田　昌隆　　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　竹下　圭一郎　　　　　　　　㊞